

平成 27 年度 東北復興支援活動報告会のご案内

日本沙漠学会乾燥地農学分科会会長 石川 祐一

テーマ：津波塩害農地の除塩および土壌修復技術に関する研究

亶理町の津波堆積土を利用した野菜栽培事例の紹介～土壌改良による収量の違いについて

開催日時：平成 27 年 11 月 16 日（月曜日） 13：00～14：05（説明会）

14：30～15：30（エクスカージョン）

開催会場：わたり温泉鳥の海 2階会議室（宮城県亶理郡亶理町荒浜字築港通り 41-2 Tel 0223-35-2744）

主催：国立大学法人東北大学大学院農学研究科，後援：日本沙漠学会乾燥地農学分科会

協力：(株)大林組，(株)タケエイ，(株)環境科学コーポレーション

概要：東北大学大学院農学研究科は、震災復興を進めるため、学術の知見を実務に活かす取組を進めている。その一環として、大林組と平成 24 年～平成 27 年にかけて共同研究「津波塩害農地の除塩および土壌修復技術に関する研究」を行っている。平成 26 年に亶理町で始めた試験圃場では、亶理町農林水産課、および農家の森一郎氏の協力を頂き、津波堆積土を利用した野菜栽培による土壌改良効果を調査している。本報告会は、その成果を亶理町の方々に知って頂き、今後の農業活動に活かして頂くことを期待して、開催する。

参加費：無料

その他：本報告会は、公益財団法人 経団連自然保護協議会・公益信託 経団連自然保護基金の平成 27 年度助成を受けて、実施されるものである。

プログラム

総合司会：石川 祐一，分科会会長

■説明会（13:00～14:00）

13:00 開会の辞 石川 祐一（分科会会長，秋田県立大学准教授）

13:05 講演
津波被害を受けた農地土壌の概況とその対策について（菅野均志，東北大学助教）

13:35 講演
亶理町の津波堆積土の土壌改良による利用例（杉本英夫，大林組技術研究所）

14:05 閉会の辞 南條正巳（前日本土壌肥料学会 会長，東北大学教授）

■エクスカージョン（14:30～15:30）

大林組・東北大学大学院農学研究科の共同研究の試験圃場（亶理町浜吉田近く）の見学

※エクスカージョンの参加は、任意です。シンポジウム会場から各自の車で移動します。

※試験圃場の案内地図は、シンポジウムの資料と別に配布します。